15:30　木と生きる～暮らしと産業～

（斉藤工業所）

森林の立木が木材になる過程を把握するために、旭川市の株式会社斉藤工業所の見学を行った。敷地内に積み上げられた木材は広葉樹、針葉樹問わず集められ、お客様のニーズに合わせて少ロットでも製材を行っていると説明があった。製材された板がどのような使途で出荷されていくのか等の説明もあった。

（木と暮らしの工房）

「白樺プロジェクト」に参加している東川町の木と暮らしの工房を見学した。以前はタモやナラで家具を作っていたが、現在は道産のシラカバを使用した家具や小物などを製作している。シラカバの樹皮をひものように細く加工し、デザインとして家具や小物に活用するなど、シラカバを無駄なく使用していると説明があった。

18:00　終了

◆2 日目（7/28）　東川町　キトウシ森林公園　　受講者数：21 名

10:00　木とふれあい、木に学ぶ

（合同会社 machi cen　宮本　英樹）

キトウシ森林公園にて、北海道の主要 10 種の樹木について樹木図鑑を使いながら説明が行われた。森林内では、実際に木肌や葉に触れ、その感触や匂いを体感し、樹皮を観察するなど、受講生は五感を使って特徴を学んだ。また今後受講生が木育マイスターとして活動していくのに必要な知識の基礎をゲーム方式で学んだ。

12:00　昼食　休憩

13:00　木と生きる～人の成長と木の関係～

（合同会社 machi cen 宮本　英樹）

人の成長と木の関係についての講義があった。子どもの成長には、子どもの「個性」と発達度合いに合わせた「課題」、「環境」の３つが重要であること、個人に対して適した課題設定を行い、環境を整え、子どもにとって「快」の状態を作ることが、成長の速度や深度に良い影響をもたらすことなどの説明により、木育マイスターの役割について学んだ。

15:10　木育はつながりのキーワード～木育プログラムの伝え方～

（合同会社 machi cen　宮本　英樹）

より効果的な伝え方や指導法を身につけるために、プログラムの伝え方についての講義がなされた。伝える手法には「伝授型」「双方向」「参加型」があること、伝える流れ、リズムが大切であることを学んだ。また、参加者に質問を繰り返し、それに応じて質問のレベルを上げ下げすることで最終的な目標にたどり着く、「質問力」の重要性を学んだ。

17：20　終了

■第2回目　令和6年10月26日-10月27日

◆1 日目（10/26）　沼田町　幌新の森　　受講者数：21 名

10:00　木と生きる～森林ボランティア、レクリエーションの今～

（合同会社 machi cen　上田　融）

沼田町幌新の森を活動拠点としている NPO 法人そらち自然学校の取組について紹介があった。「森の暮らし型体験」をコンセプトにしており、訪れた人が体験する「馬や羊の餌やり」、「薪割」、「樹液採取」などを特別な体験と捉えるのではなく、「森の暮らし」の延長線上にあり、これらの体験が森の整備に繋がっているのだという説明があった。特に、馬を飼う事で、熊の出現が減ったという内容については、受講生も興味を持って聞いていた。

11:00　木とふれあい、木に学ぶ

（合同会社 machi cen　上田　融）

鋸の使い方や樹木への切込みの入れ方、倒木の方向に注意することなどの安全指導を行ったのち、伐倒作業を行った。伐倒の前に、どの木を切ると森の整備としてよいのか、どちらの方向に倒すのがよいのか、どのような切込を入れるのがよいのか、など受講生に質問をし、予想をさせることで、ただ伐倒作業をするのではなく、参加者主体でプログラムが構成されていることを経験した。

12:15　昼食　休憩

13:15　木とふれあい、木に学ぶ

（KEM 工房 煙山　泰子　/　合同会社 machi cen　上田　融）

事前に準備されていたシラカバの板を用いてカッティングボードの制作を行った。はじめに制作の手順と道具の説明をし、必要な工程を講師が見本を見せたのち、実習に移った。

製材したシラカバの板を、受講生の好みに合わせてカットし、削り馬を使って形を整え、穴をあけ、紙やすりで磨き、最後にアマニ油を塗り、完成させる工程であった。

個性豊かな作品が数多く出来上がり、受講生は満足げだった。

15:45　木育プログラムのつくり方

（合同会社 machi cen　宮本英樹）

受講生が参加した OJT の自己評価シートからキーワードを拾い上げ、全員でその体験を共有した。キーワードとして「ゲーム性」「多様性」「参加者に合わせた臨機応変さ」など、プログラムを実施する上で重要なことは参加者を飽きさせず興味を惹きつけ続けること、参加者が主体であることなどの講話があった。また、序・破・急を取り入れたプログラム作りが効果的であると説明があった。

16:45　木育はつながりのキーワード～木育プログラムの伝え方～

（合同会社 machi cen 宮本　英樹）

プログラムは参加者を飽きさせない、興味を惹きつけ続けることや、参加者が主体であることの重要性についての説明があった。実際にフラフープやトランプなどの道具を用いてゲームを行い、プログラムの中で共通の課題を成功させるには、全体に指示を出すのではなく、個々に言葉をかけることが大切であることなどを学んでいた。

17：45　終了

◆2 日目（10/27）　沼田町　幌新の森　　受講者数：21 名

9:30　木と生きる～暮らしと産業～

（ノンフィクションライター　西川栄明）

木育マイスターとはどのような存在かについて講話があり、受講生は、マイスターとしての自覚を持つことや企画力の重要性について再認識していた。

次に木育プログラムの企画立案のヒントとして色々な事例の紹介があり、それから木材製品の歴史や特徴について理解するため、木の道具や木の文化、習慣などの歴史的背景についてスライドにより講義を受けた。

古来から樹種の特徴による適材適所を考えながら人と木が共存してきた経緯を受講生は学んでいた。

12:00　昼食　休憩

12:45　木と生きる～林業林産業の今～

（合同会社 machi cen　宮本英樹）

森で余暇を楽しむためのコンテンツとしてのテントサウナや森の執事（ネイチャーバトラー）の存在についてなどの説明があった。また、「森の暮らし」、「農園の暮らし」、「牧場の暮らし」を展開している大沼流山牧場での活動内容の説明もあり、木育と暮らし・産業の関連性について学習した。

受講生は、森林の活用方法として「空間利用」や「里山的利用」など、時勢に合わせた発想と着眼点が大切であることを学んでいた。

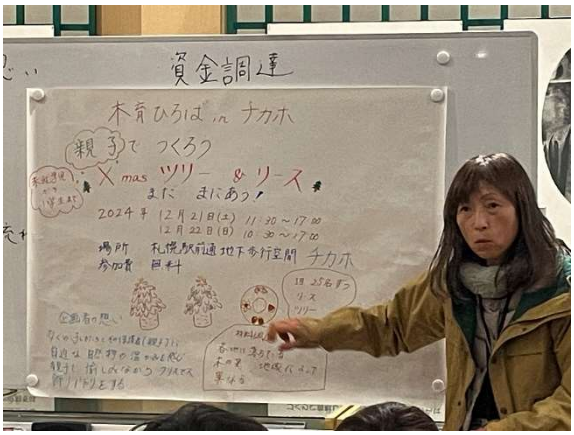
13:45　木育はつながりのキーワード～プログラムの作り方～

（合同会社 machi cen　宮本英樹）

木育プログラム､企画を組み立てる際に重要なコンセプト（主旨、ねらい）づくりについての講義だった。

自分の思いを形にして伝えるためにはマーケット分析が大切なことや、企画・実施・評価を繰り返してフィードバックしていくことで、よりよいプログラムができていくことを受講生は学んでいた。

これまでの講義で学んだ「体験活動」やプログラム作成に大切な「思い」「コンセプト」などの企画作りのアウトラインを活用して、受講生自身がこれから取り組みたい企画を提案し、そのテーマについてグループワークにより 4 つのプログラムの企画・発表を行った。



最後に各自の「木育宣言」を発表し、全 4 日間の研修のまとめとした。

18:00　終了

●OJT の実施

OJT は A 日程研修、B 日程研修ともに第 1 回目と第 2 回目の間に実施し、その経験を、後半の第 2 回目の講義に活かせるようにした。道内全域（道央地域、道北地域、十勝地方、道東地域、道南地域）で計 71 件の OJT を設定し、そのうち 36 件の OJT に参加があった。OJT 実施にあたっては、受け入れの担当者と調整を行い、研修生の学びに重点を置いたサポートを依頼した。

OJT 当日は、プログラムの事前準備や打合せ、振り返りまでを、イベントを運営するマネジメント手法や実際のプログラム手法、注意点などを参加することによって体験的に学んだ。OJT 終了後は、研修生が自己評価シートに自分の役割、評価・反省点、感想などを記入し、内容を振り返り、今後の自身の活動に活かせるようにした。

番号	日時	講師	場所	内容	受講者
1	８月３日	鈴木　正樹 山本　賢治	シエスタ函館 無印良品	木育ワークショップ	川本　加奈
2	8月17日	槇　大樹	恵庭市	「秘密基地をつくろう！②（壁、家具編）」 東屋の腰壁やテーブル、椅子、棚を子どもたちと共に制作するクラフト体験	上野　晃生 永山　尚貴
3	8月24日	道場　祥子	三井アウトレットモール 札幌北広島	木育ワークショップ 『木製うちわデザイン』	植田　祐未
4	8月24日	槇　大樹	恵庭市	「原始キャンプキッズ（デイキャンプ）」 小学校低学年以下を対象に薪割り、丸太切り、野外炊飯などの体験イベント	槇　悠水
5	8月25日	新村　充	芦別市内	川沿いに歩き、アンモナイトを探す	矢口　瑞穂
6	8月25日	田村　公平	札幌芸術の森	親子向け木工クラフト体験	永山　尚貴
7	8月25日	道場　祥子	三井アウトレットモール 札幌北広島	木育ワークショップ 『木製うちわデザイン』	小池　泰子
8	8月29日	岩橋　弘	札幌市北区	木育クラフト講座① ワークショップ準備編	岩橋　愛
9	8月30日	岩橋　弘	札幌市北区	木育クラフト講座② ワークショップ講座編	岩橋　愛
10	9月1日	日月　伸	帯広の森 はぐくーむ	あそびの森のあしあとづくり 親子森づくり、森あそび	杉本　荘平 松田　悠佑
11	9月1日	高野　克也	藻南公園 （札幌市）	小学生と保護者向けプログラム「涼しい森で働くぞ！」で参加者と一緒に森での軽作業と自然遊びなどを楽しむ。	大館　史郎
12	9月4日	日月　伸 大石　拓人	帯広の森 はぐくーむ	幼児親子向けの自然体験　森のお散歩	髙島　華維 高橋　梨沙 山口　結晶

13	9月 7 日	槇　大樹	恵庭市	「秘密基地をつくろう！③（クラフト編）」 建てた東屋で、木工クラフト体験：バターナイフ、カトラリーほか	槇　悠水
14	9月9日	高野　克也	円山公園 （札幌市）	大人を対象にしたガイドプログラム。キノコに詳しい講師を招き、キノコの観察をしながら散策します。	大館　史郎 本多　巧歩
15	9月11日	上田　融	ひかりの国 幼稚園	幼稚園の課外授業　年中年長の希望する幼稚園児と森に行き、自然の中で遊ぶ	中川　貢
16	9月14日	鈴木　正樹 山本　賢治 春澤　栞 他	株式会社 ハルキ	函館市立工場　地域探求学習	北村　武文
17	9月14日～ 15 日	槇　大樹	恵庭市リサーチ ビジネスパーク	北海道の mokuiku ボクらと樹木はイイ感じ！ 「木は二度生きる」をテーマに、森から切り出された木が材に加工され、再び活用される工程を子どもたちと共に疑似体験するイベント（1 泊 2 日） 1 日目：保安林伐木見学（江別）→木材加工見学（千歳）→恵庭 RBP（1 泊） 2 日目：木工クラフト～カホンをつくろう！	星　薫勝 （15 日のみ） 笹谷　啓皓 佐藤　嘉晃 中田　拓希
18	9月15日	石堂　光	さとらんど （札幌市）	木育ワークショップ 丸太切り×コースターづくり、薪割り×焼きマシュマロ	田丸　亮 内海　紗希 堀　稜輔
19	9月16日	石堂　光	さとらんど （札幌市）	木育ワークショップ 丸太切り×コースターづくり、薪割り×焼きマシュマロ	菅野　亘

20	9月18日	上田　融	ひかりの国 幼稚園	幼稚園の課外授業　年中年長の希望する幼稚園児と森に行き、自然の中で遊ぶ	井上　亜紀代
21	9月19日	鈴木　正樹	ニッシンの森	間伐体験	小川　航輝
22	9月21日	佐藤　潤一	アグリアリーナ （音更町）	食べる大切フェスティバルへの出展（士幌高校環境班木琴作り）	宮田　光夫
23	9月24日	加藤　正紘	ニセコ町 アンヌプリ スキー場	木育イベント NISEKO WOOD PARK の運営補助	高木　北斗
24	9月25日	鈴木　正樹 山本　賢治	一ノ渡小学校 （北斗市）	木工制作	大濱　一夫
25	9月26日	日月　伸 大石　拓人	帯広の森 はぐくーむ	小学6年生の森林教室 間伐体験、樹木の測定など	工藤　麻未 高橋　朝陽 髙島　華維
26	9月27日	大石　拓人	帯広の森 はぐくーむ	小学校4年生の森林体験教室　間伐体験、葉っぱを使った自然観察など	徳重　誠
27	9月28日～ 29日	槇　大樹	青葉公園 ピクニック広場 （千歳市）	原始キャンプ② まいぎり式火おこし、薪割り、野外炊飯など、森の中で子どもたちの協同によるキャンプ。アウトドアナイフを使った箸・スプーン作り・調理、自然物による工作、野外炊飯など	上野　晃生 槇　悠水
28	9月29日	萩原　寛暢 高橋　秀明	別保公園 （釧路町）	「遊んで！食べて！楽しんで！わくわく木育体験」にて、木の輪切り宝探し、薪割りや焚き火、焼き芋やパン作り、木工体験など	篠永　政男 中村　和生 宮田　真司
29	9月30日	佐野　愉架	東部中央公園	葉っぱ観察	吉川　典加
30	10月5日	山本　賢治 原田　泰	シエスタ函館 無印良品	木育ワークショップ	川本　加奈
31	10月10日	佐野　愉架	神楽岡公園	葉っぱ観察	吉川　典加
32	10月11日	佐野　愉架	神楽岡公園	葉っぱ観察	飯田　翔瑠 吉川　典加

33	10月12日	佐々木　昭彦	旧愛冠駅	木工作	松田　悠佑
34	10月19日	高野　克也	藻南公園 （札幌市）	公園主催のイベントのプログラムを進行する。紅葉、落ち葉、木のみを用いたアクティビティと簡単なクラフトの指導。	星　薫勝 山本　崇人
35	10月19日	槇　大樹	安平町	原始キャンプ SP（原始キャンプのスペシャル版） キャンプ場ではない森の中で、水道も電気もない環境で、自然の驚異と尊さを感じる。自然木を使ったブッシュクラフト、野外炊飯、自然観察など、森を存分に味わうキャンプ。	杉崎　也寸子
36	10月20日	日月　伸 大石　拓人 秋祭りスタッフ	帯広の森 はぐくーむ	はぐくーむ秋まつり 森づくりに関するコンテンツをそろえた体験型のイベント 例）間伐、外来種駆除、森の散策など	髙島　華維 富樫　明梨 三枝　慧 星　勇輔 山添　大地

【OJT 受講の様子（抜粋）　】

●木育マイスターフォローアップ研修

北海道の木育 20 周年記念イベントの実施

■令和 6 年 11 月 10 日

◆11/10　札幌市北海道大学学術交流会館

参加者数： 177 名（スタッフ含む）（一般 110 名　マイスター67 名）

9:00～10:00　開場

10:00　開会式

10:07　トークイベント（煙山、西川、濱田、宮本）

　トーク前半は木育の誕生に携わった 4 名の方から、当時の想いや北海道の木育の歴史、理念の生まれた背景などの熱いトークが繰り広げられた。北海道の木育は、心の森づくりという思いのもと発展してきた 20 年の積み重ねを知ることができた。

司会進行

・西川　栄明氏　編集者

話し手

・煙山　泰子氏　KEM 工房　主宰

・宮本　英樹氏　合同会社 machi cen　代表社員

・濱田　智子氏　株式会社環境リアライズ　相談役

　後半は、北海道各地で活躍されていらっしゃる現役木育マイスターを始めとする 7 名からそれぞれの取り組み事例の紹介と、トークセッションが行われた。「あれも木育これも木育」という北海道の木育の考えを各地で多様に展開されていらっしゃる姿に今までの 20 年そしてこれからの 50 年に想いを馳せる時間になった。

・日月　伸氏　1期

・高山　真由子氏　6期

・原　　弘治氏　8期

・八木　一馬氏　9期

・北森学生　堀稜輔氏、内海紗希氏　R6受講生

・三原洸太郎氏　カンディハウス勤務

13:30　木育マイスター事例発表会（木育 NEXT50 事務局：野中、八木）

はじめに、2 名のマイスターが、スライドを用いて 10 分間の事例を紹介。木育マイスターが地域でつながり、木（自然）と人、人と人がつながる事例を紹介していただいた。

木育マイスターが一般企業や自治体とつながり、社会で活躍していく可能性を感じた。

・鶴田恵利（７期）「木育から生まれた美味しいもの」

株式会社積丹スピリットで製造しているクラフトジンについてだけではなく、地域での木育活動やジン（植物、草木）を通して地域（自治体）や人と自然がつながる事例を発表。

・山本賢治氏（11期）「企業、学校、地域と取り組む木育」

木育マイスター道南支部（一般社団法人まなびのもり）や株式会社ソダツクルでの活動について発表。教育事業をはじめとして、木育を通して企業との連携やプロダクト開発を行う。Mokuikuと表して、新たな木育の可能性についても期待を感じさせた。

その後、6名のマイスターが口頭や道具を使って3分間で活動を紹介した。一般の参加者の方にも、「あれも木育これも木育」というように、木育マイスターには多様な世代で様々なセクター、技術や経験を持ち合わせたメンバーがいることを知ってもらえた。

・長崎結美氏　（10期）

関東圏への木育の広がり、大学生（特に保育学生）が木育活動に携わる木工楽器でのワークショップについて。

・村山恵一郎氏　（11期）

枝幸町を中心に、木材会社（村山木材）を営みながら、宗谷地方をはじめとして全道での林業を中心とした木育活動の展開について。青年層への木育活動の意義についても言及。

・七戸千絵氏　（1期）

札幌を中心に株式会社セントモニカにて商品開発を行い、樹木の持つ治癒力や幅広いセラピーの可能性について。

・中野百合華氏　（13期）

士別町の木材生産を行う三津橋産業で働きながら、会社としても個人としても上川管内のマイスター

と連携して、幅広く木育の推進を行う。

・崎川哲一氏　(9期)
　樹木医として活躍する一方で、森のピタゴラスという知育玩具の開発や放課後等児童デイサービスの開所など、木育×子ども、福祉分野でも木の専門家としての知見を世の中に活かした活動について。

14:26　閉会式

14:32　木育マイスター交流会（木育 NEXT50 事務局：佛坂、山本（賢））
　交流会には、50 名を超えるマイスターの方々が参加した。まず､5 名の木育マイスターがそれぞれの活動事例を紹介された。

１）伊藤　あかり氏　(14 期)｢幼児教育と森遊びについて｣

２）森田　信道氏　(13 期)「自伐型林業について」

３）桂　充子氏　(3 期)「教育現場での木工について」

４）槙　大樹氏　(14 期)「自然遊びについて」

５）大滝　英治氏　(11 期)「刃物を使った活動について」

その後､各テーブルに分かれ､木育から生まれた食べ物(※:下記参照)やトークテーマをもとに、参加者同士で交流を深めた。

※木育から生まれた食べ物
　「木育から生まれた美味しいもの」
●燻製カシューナッツ…厚真町の木の木くず等で燻したカシューナッツ
●ハマナスのノンアルコールジン…株式会社積丹スピリットの鶴田さんがご用意された非売品
●BEURRE キャラスク…大沼流山牧場の森で採取されたメープルシロップをふんだんに使った贅沢なラスク

16:00　交流会終了

◆会場運営について

・受付、ロビー展示

受付は、①事前申込み(木育マイスター)　②事前申込み(一般)　③事前申込み以外　の3コースに分け、道職員2名と事務局2名が担当。

来場順に並んでもらい受付後に会場入りしてもらった。

参加者全員に木育関係のパンフレット等、事前申込者にはパンフレットのほか特典のノベルティー、交流会参加者には名札と参加木育マイスター一覧表も配布。

ロビーは、受付のほか、「北海道の木育のパネル展示」「木育ファミリー展示」「木育マイスター展示」「アンケート」「名札記名台」を設置し、北海道の木育の全体像がわかりやすいコーナーとなっていた。

◆木育広場

お子様連れ参加の方もゆっくりとイベントに参加いただけるよう講堂から近い場所に木育休憩室を設けた。

休憩室には、『森のデカゴラス』/合同会社森のピタゴラス『タマコロ・ファミリー』/KEM工房、『POTATOY』/株式会社ソダツクルなど、多数の木製遊具を用意した。

利用者からは、「一息つくことができた」「安心して講演を聞くことができた」などの感想をいただいた。

また、子どもたちもたくさんある遊具で自由に遊び楽しんでいた。

●木育マイスターミーティングの実施

■第１回目木育マイスターミーティング

実施年月日：令和６年５月 23 日（木）

会場：札幌市中央区南８条西２丁目　市民活動プラザ星園　特別会議室３階

参加者：11 名

（木育ファミリー）西川栄明、煙山泰子

（木育マイスター）鈴木正樹（1 期）、萩原寛暢（1 期）、大石拓人（2 期）、
秋山恵美子（3 期）、柿原久仁佳（6 期）、崎川哲一（8 期）、
八木一馬（9 期）、大滝英治（11 期）、道場祥子（11 期）

内容：令和５年度の木育ミーティングの振返りと情報の共有。北海道の木育 20 周年記念イベントの開催に向け、実施主体及びプログラム内容について意見交換をした。木育マイスター主体の実行委員会を立ち上げ、イベントを企画実施していくことが決定した。次回のミーティングまでに内容を精査していくことを課題として終了した。

■第２回目木育マイスターミーティング

実施年月日：令和６年８月 26 日（月）

会場：札幌市中央区南２条西７丁目４－１

参加者：6 名

鈴木正樹（1 期）、秋山恵美子（3 期）、原弘治（8 期）、八木一馬（9 期）、
道場祥子（11 期）、佛坂樹華（13 期）

内容：北海道の木育 20 周年イベントについて、午前の部では鼎談を行うことや午後の部では事例発表と交流会を実施するなど計画と進行状況について報告があった。昨年度の課題として上がっていた、木育マイスターの更新制度について、年度末に実施したアンケート調査をもとに議論した。また、本部機能の必要性、役割やかかる労力と予算についての議論を行った。最後にコミュニケーションツールの選定と研修応募者の選定について話し合い、コミュニケーションツールは LINE グループが最も使いやすいという意見や推薦枠や試験制度の導入が必要ではないかという意見があがった。

■第３回目木育マイスターミーティング

実施年月日：令和６年 12 月 11 日（水）

会場：オンライン（Zoom 利用）

参加者：10 名

日月伸（2 期）、秋山恵美子（3 期）、柿原久仁佳（6 期）、鈴木正樹（1 期）
崎川哲一（8 期）、原弘治（8 期）、八木一馬（9 期）、道場祥子（11 期）、
大滝英治（11 期）、高山真由子(6 期)

内容：主に北海道の木育 20 周年記念イベントの報告、自己研鑽制度、更新制度、本部機能について議論が行った。佐野課長が挨拶で、令和６年度のマイスター認定者について言及し、木育の重要性について強調された。20 周年記念イベントでは 177 名が参加し、満足度が非常に高かったことが報告された。

自己研鑽制度については、現行の OJT 制度の課題と改善点が議論され、より柔軟な研修方法の検討が提案された。更新制度では、4 割のマイスターから連絡がない状況が報告され、名簿管理の課題が指摘された。本部機能については、事務局機能の必要性と運営方法について活発な議論が行われ、来年度以降の方向性が検討された。

●まとめ

・受講人数について

令和６年度木育マイスター育成研修は、昨年同様、研修開催を 2 回に増やしたものの、定員 30 名の 3 倍以上の 107 名の申し込みがあったため定員を若干名増やした。A 日程、B 日程合わせて 45 名の受講生が全てのカリキュラムに参加し、研修カリキュラムを修了した。

令和６年度木育マイスターフォローアップ研修（北海道の木育 20 周年記念イベント）については、木育マイスター限定の交流会において定員数を 50 名に設定した。定員以上の申し込みがあった。イベント全体としては 177 名、交流会には 50 名の木育マイスターが参加した。

・会場について

令和６年度木育マイスター育成研修の会場については、A 日程は、工場見学が可能な工場が近郊にあり、林業体験の際に自由に伐倒ができる森（イコロの森）や北海道の樹種を見学できる森林（苫小牧北大研究林）も周辺にあり、かつ受講生が宿泊先の確保が容易な場所で検討し、全道各地から参加しやすいよう道央地域にあるイコロの森（苫小牧市）で実施した。イコロの森内の研修会場は国道から入り組んだ道を進んだ先にあるため、一部の受講生からは場所がわかりづらかったとの声もあったが、研修施設及び周辺の環境については高評価であった。

B 日程においては、A 日程の会場が道央地区であり、また北海道立北の森づくり専門学院の生徒の受講もあったことから旭川市周辺を研修会場とした。土日開催のため、土曜日に見学ができる工場が旭川市周辺にあったことも選定の要因となった。2 回目の研修会場である沼田町幌新の森は、立木の伐倒が可能であること、森をフィールドとした NPO 法人そらち自然学校の取組を体験できることから研修場所とした。

フォローアップ研修については、今年度、北海道の木育 20 周年の記念すべき年であることから「北海道の木育 20 周年記念イベント」をフォローアップ研修の一環で開催した。記念式典の会場として交通の便が良く、誰にでも分かりやすい場所として北海道大学をイベント会場とした。

木育マイスターミーティングについては、1 回目、2 回目とも遠方からの構成員も参加しやすいよう、交通機関が充実している札幌市内で開催した。3 回目については、12 月開催のため悪天候時に移動困難な状況も加味し、オンラインによる開催とした。1 回目、2 回目とも現地参加が難しい構成員の方にはオンライン参加も可とした。

・研修時期について

木育マイスター育成研修は、両日程で充分な OJT の受講期間を確保するため、1 回目と 2 回目の研修期間を 2 か月程度あけた。夏の緑の森と秋の紅葉の森の違いを体感するため、1 回目の研修を 7 月中旬～下旬に設定し、2 回目の研修を 10 月中旬～下旬とした。

OJT は各日程の 1 回目と 2 回目の間（1 回目研修翌日～2 回目研修前日）に行い、OJT で経験したことを第 2 回目研修で活かせるようにしたことで、第 2 回目研修の際に受講生の理解がより深まったと思われる。

フォローアップ研修は、OJT との日程が重ならないように育成研修終了後に実施したため 11 月中旬開催となったが、今年度は日高地方での開催で、かつ天候も良かったため、それほど寒さは感じなかったが、今後は、開催場所に応じて開催時期を検討する必要がある。

木育マイスターミーティングは年度内 3 回実施するにあたり、2 回目をフォローアップ研修と同時開催（11 月）することを軸とし、構成員が意見をまとめるのにちょうどよい間隔になるよう 1 回目と 3 回目の開催月を検討し、各構成員が参加しやすい月（7 月と 2 月）で実施した。

・カリキュラム・スケジュールについて

研修終了後に受講生から取ったアンケートによると、カリキュラムについては概ね満足を得られている。講座の時間もちょうどいいと答えている方が多く見受けられた。

・今後の木育マイスター育成研修・フォローアップ研修について

木育マイスター育成研修は平成 22 年(2009 年)度から実施されているが、2009 年～2023 年度の 14 期で合計 369 名の木育マイスターが誕生した。今年度、新たに 44 名のマイスターが加わり、合計 413 名となった。

木育マイスター1～14 期生は、木育マイスターメーリングリスト内で情報交換、意見交換などを行い、交流が進んでいる。また、今年度研修の OJT の受入先となってもらい、各人の地域・会社などで木育プログラムを行ったり、各地域のマイスターが集まって木育フェスタを実施したりと、それぞれの地域・立場で活躍中である。今年度の 15 期生も先輩マイスターに続き、活躍が期待される。

今年度の木育マイスター育成研修では 107 名の申し込みがあり、年々受講希望者は増加傾向にあり、この研修の受講希望者は今後も増えると予想される。また、応募の際のレポートには皆、木育にかける思いや、木育マイスターとなった暁にやりたいことが多く記載されており、北海道の木育の展開が期待される。

また、今年度は、北海道の木育 20 周年記念イベントをフォローアップ研修の一環として実施した。トークイベントには一般の方も参加可能とした。一般の方 110 名、木育マイスター67 名と合計 177 名の方がイベントに参加された。事例紹介では多くのマイスターが発表を行い、各自の取組内容や近況を知ることができた。また、交流会では今後の木育マイスターとしての活動を円滑に進めるために、積極的に親睦を深めている姿が印象的であった。また、マイスター同士の交流も深まり、同期以外のマイスターとも活動を共にしていけるネットワークが構築されたと思われる。

最後に、今後も北海道の木育の普及を推進していくためには、この 15 年間の研修で誕生した木育マイスター同士のネットワークをより強固なものとし、協力しあって木育の普及に取り組んでいくことが必要である。北海道の木育を進めていくためにも、本研修は継続して行われる必要があり、より多くの方に機会と場が提供されるべきと考える。

以　上